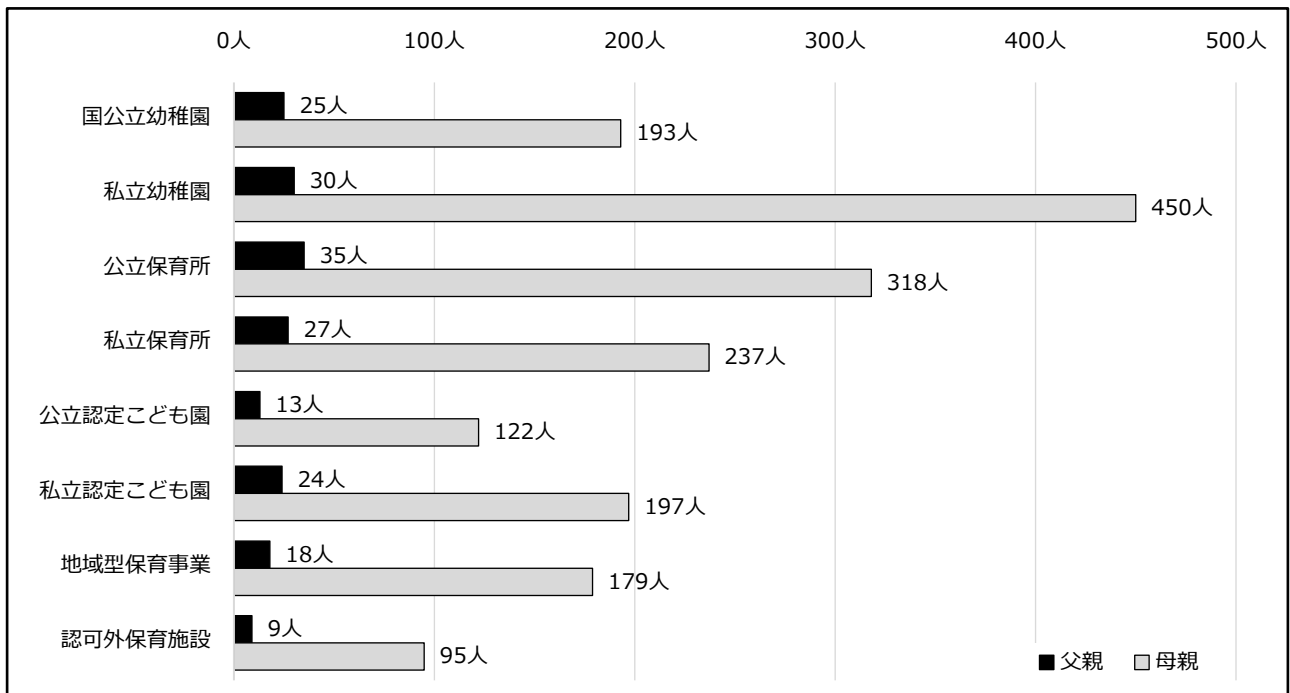


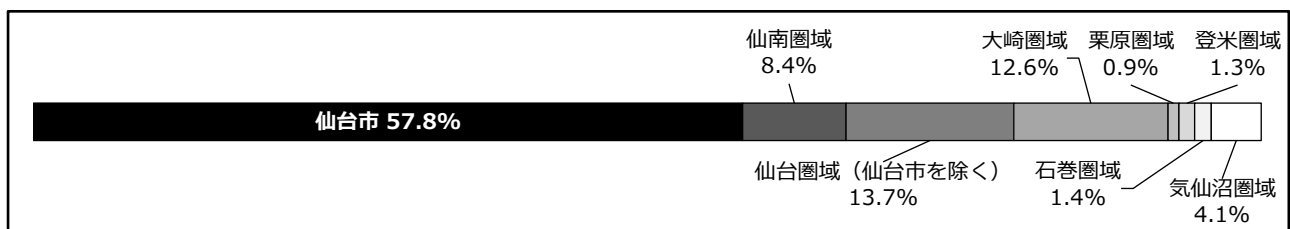
幼児教育に関わるアンケート結果（対象者：保護者）

回答数

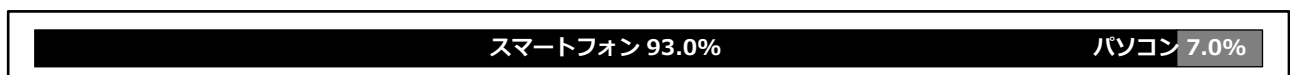
対象施設			回答数（人）			
施設区分	施設数	保護者(父親)	保護者(母親)	保護者(その他)	合計	
幼稚園	国公立	69	25	193	0	218
	私立	142	30	450	0	480
	小計	211	55	643	0	698
保育所	公立	150	35	318	1	354
	私立	260	27	237	1	265
	小計	410	62	555	2	619
認定こども園	公立	9	13	122	0	135
	私立	96	24	197	0	221
	小計	105	37	319	0	356
地域型保育事業	298	18	179	1	198	
認可外保育施設	268	9	95	0	104	
合計	1,292	181	1,791	3	1,975	



居住地



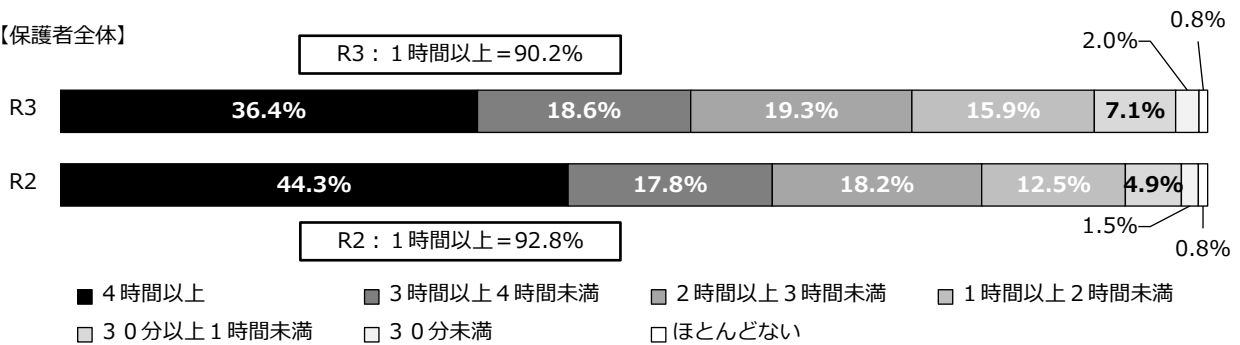
回答方法



1 親子のかかわりについて

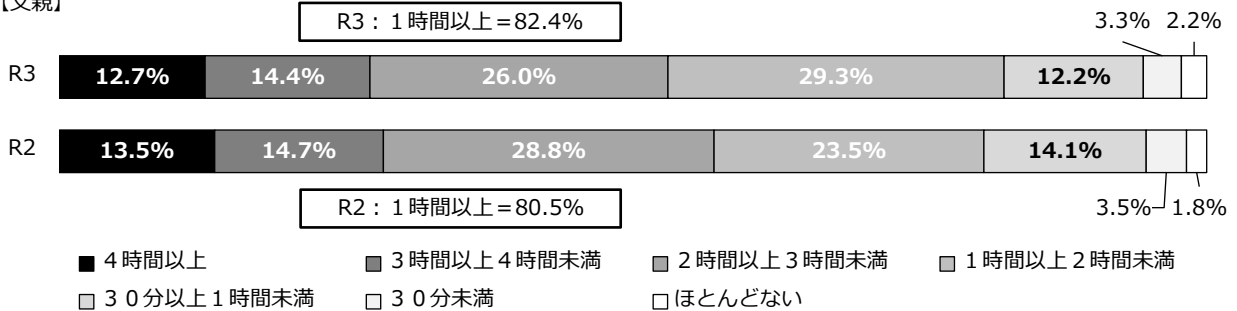
1-1-1 あなたは、平日（休日以外）にお子さんと触れ合う時間はどの位ありますか。（食事と入浴を除いた1日当たりの平均時間）

【保護者全体】

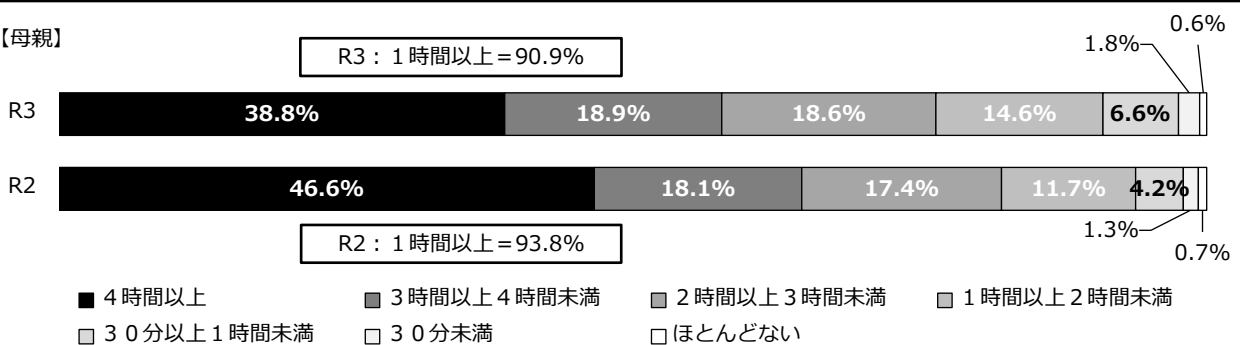


（父親・母親別内訳）

【父親】



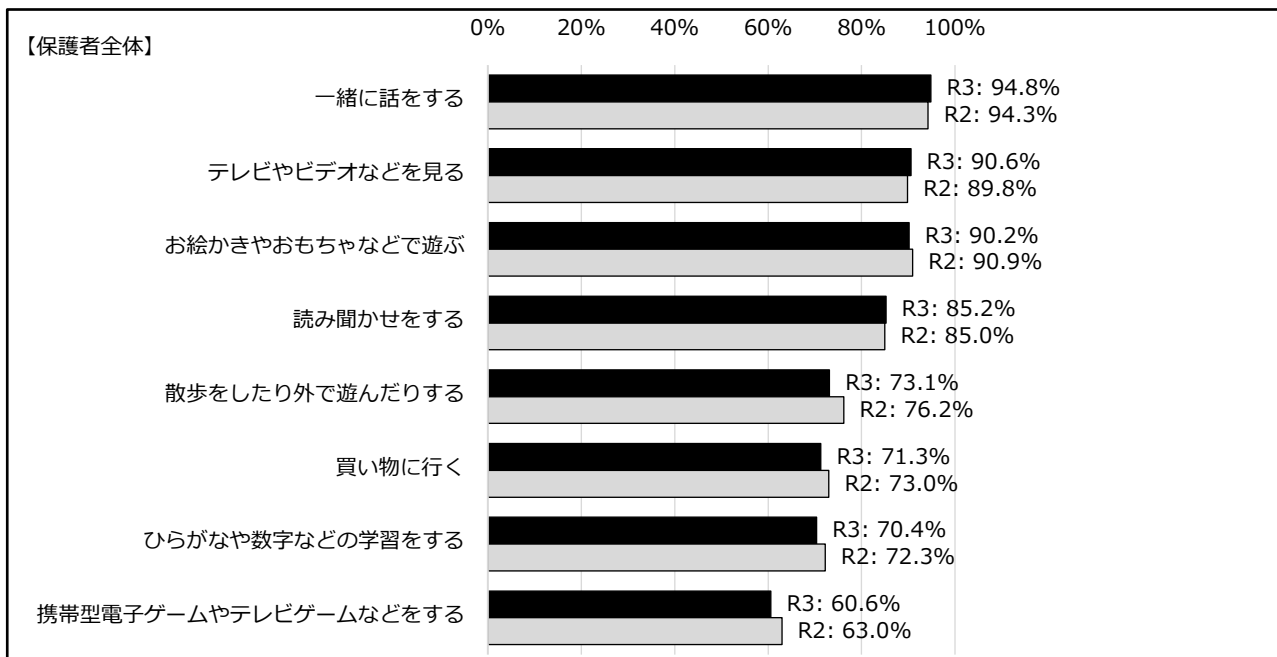
【母親】



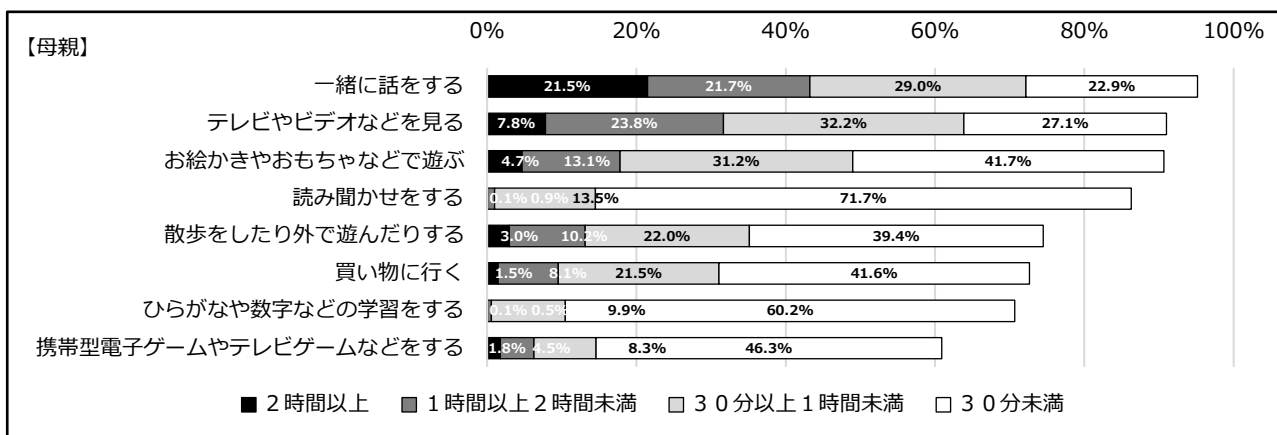
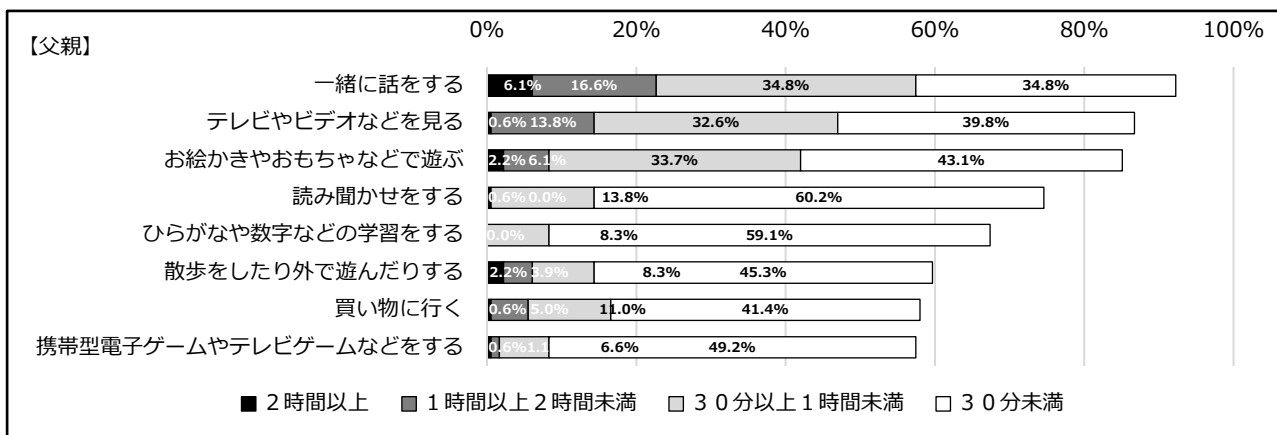
【概要・考察等】

○ 平日、子供と触れ合う時間が1時間以上と回答した保護者全体の割合は、昨年度より2.6ポイント減少し、父親・母親別では、父親が昨年度より1.9ポイント増加し、母親が昨年度より2.9ポイント減少した。

1-1-2 「1-1-1」で選択した「触れ合う時間」において、お子さんと一緒に何をすることが多いですか。（該当するもの全てを選択し、それぞれの時間も選択）



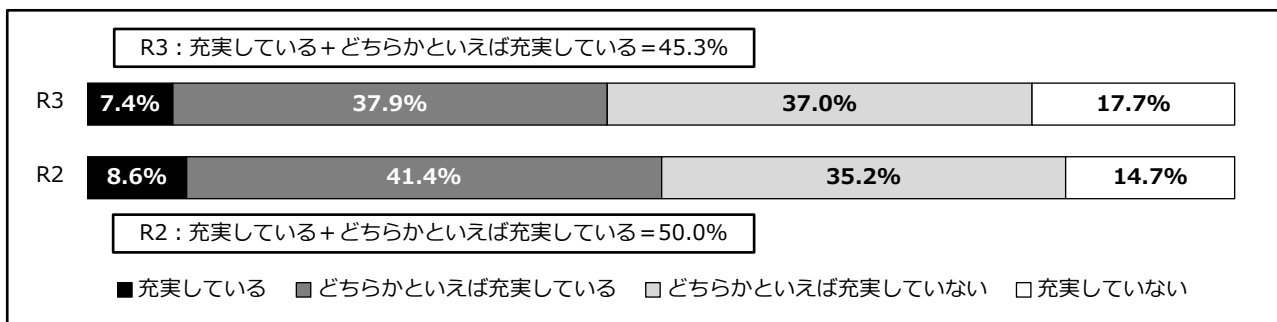
（父親・母親別内訳）



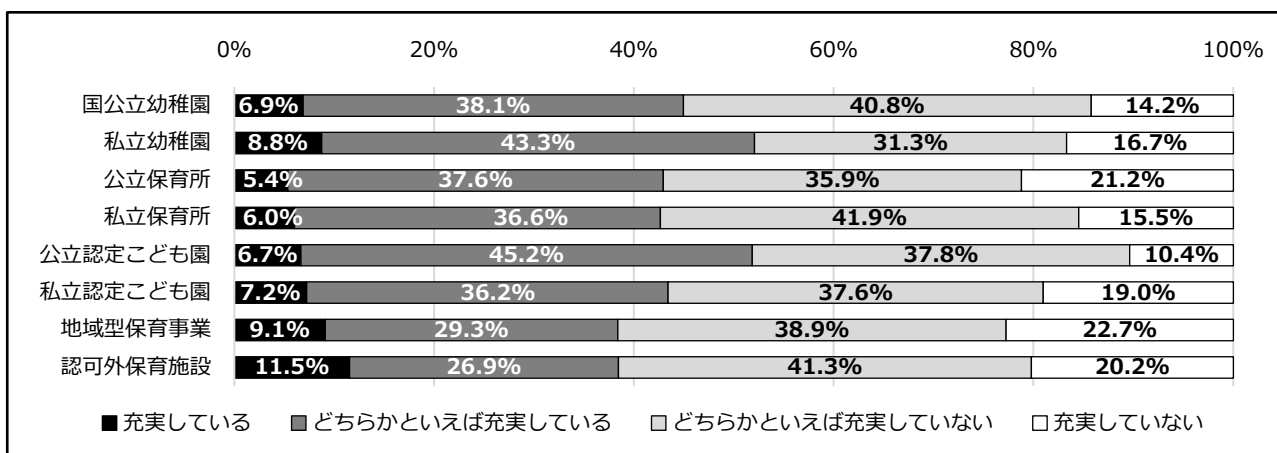
【概要・考察等】

- 子供と触れ合う内容について、「一緒に話をする」と回答した割合が最も高かった。
- 「読み聞かせをする」と回答した割合は、昨年度より0.2ポイント増加した。
- 「携帯型電子ゲームやテレビゲームなどをする」と回答した割合は、昨年度より2.4ポイント減少し、選択肢の中で最も低い割合であったことから、家庭での親子間の愛着形成が一層図られていることがうかがえる。

1-2 親として成長していくための学ぶ機会（妊娠・出産や子育てなどに関する教室や講座など）は充実していますか。



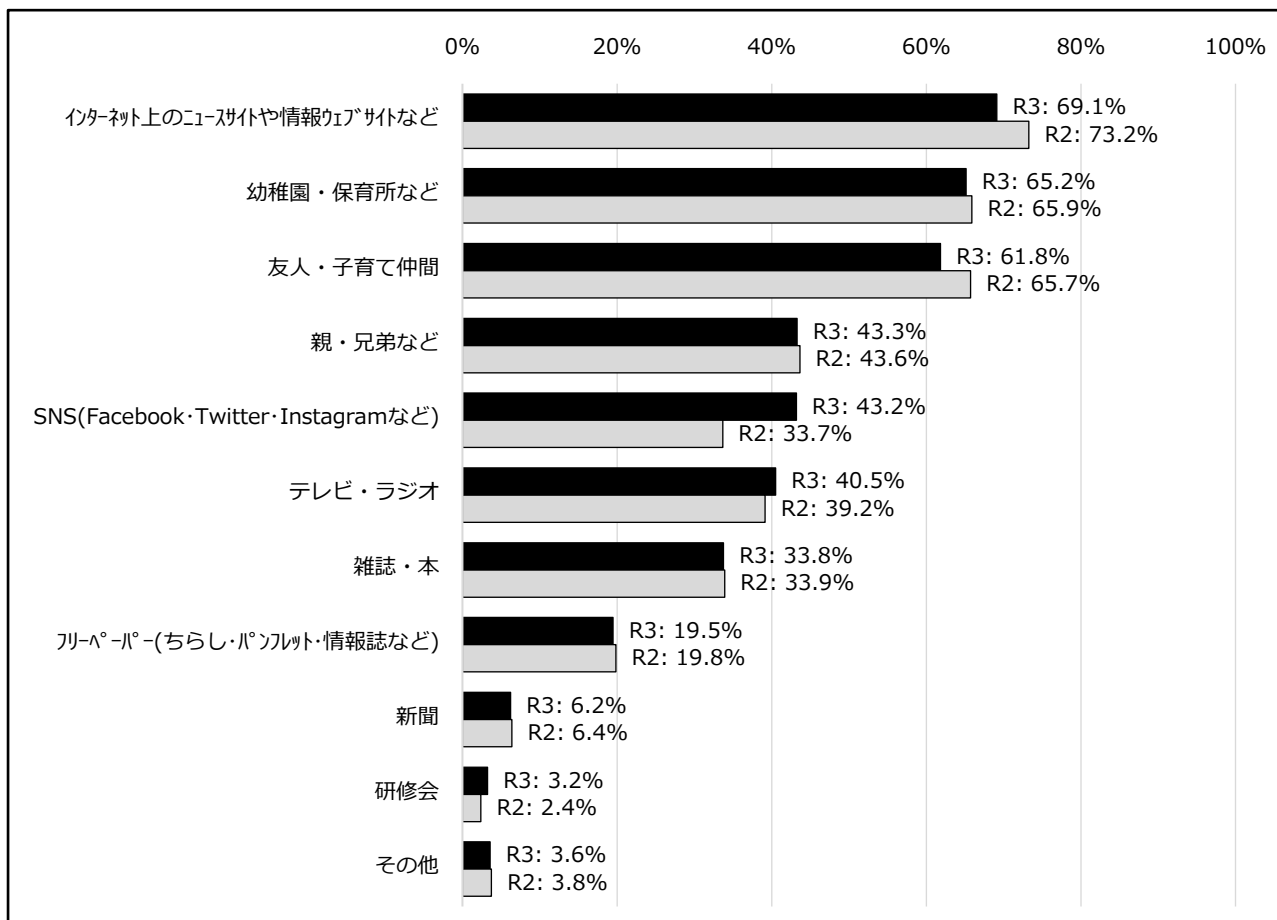
(施設類型別内訳)



【概要・考察等】

- 学ぶ機会が「充実している」「どちらかといえば充実している」と回答した割合は、昨年度より4.7ポイント減少した。
- 学ぶ機会に対する保護者のニーズを把握するとともに、学ぶ機会の情報提供の方法を工夫していく必要がある。

1-3 子育てに関する情報（知識）は、主にどのようなところから得ていますか。（該当するもの全て選択）



【その他の主な内容】

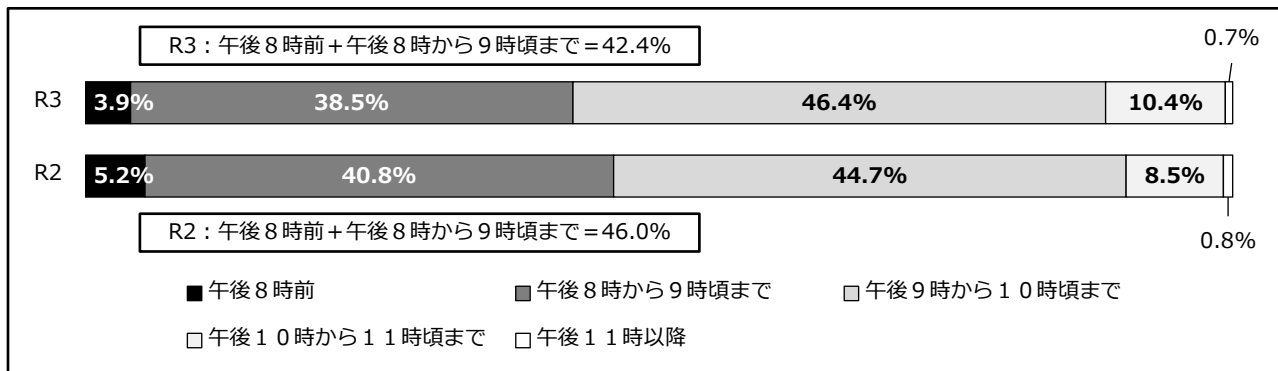
職場，地域の子育て支援センター，病院，助産院，習い事教室

【概要・考察等】

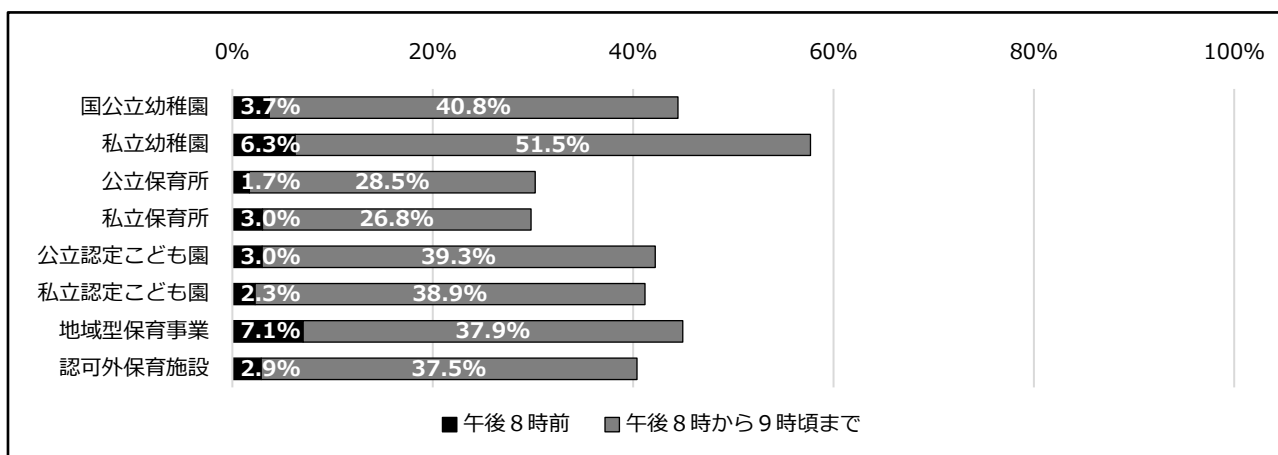
- 昨年度と同様、「インターネット上のニュースサイトや情報ウェブサイトなど」と回答した割合が最も高く、「幼稚園・保育所など」「友人・子育て仲間」がこれに続いた。
- 「SNS（Facebook・Twitter・Instagramなど）」と回答した割合が、昨年度より9.5ポイント増加したことから、SNSの活用は情報提供の方法として効果的・効率的であると考えられる。
- 一方で、「フリーペーパー（ちらし・パンフレット・情報誌など）」と回答した割合も、昨年度と同様、一定数存在することから、保護者のニーズに応じた情報提供の在り方について考えていく必要がある。

2 お子さんの基本的な生活習慣について

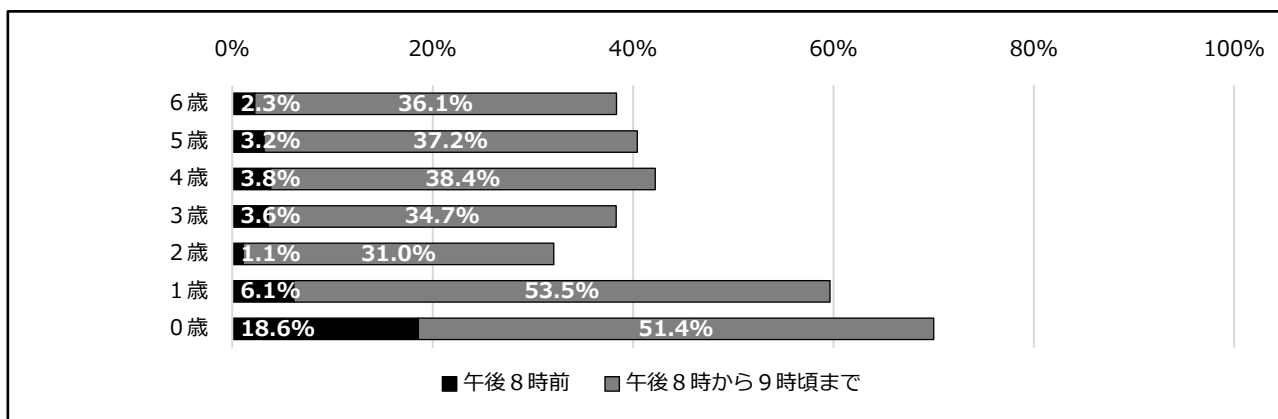
2-1-1 お子さんはいつも何時頃に寝ていますか。



(施設類型別内訳)



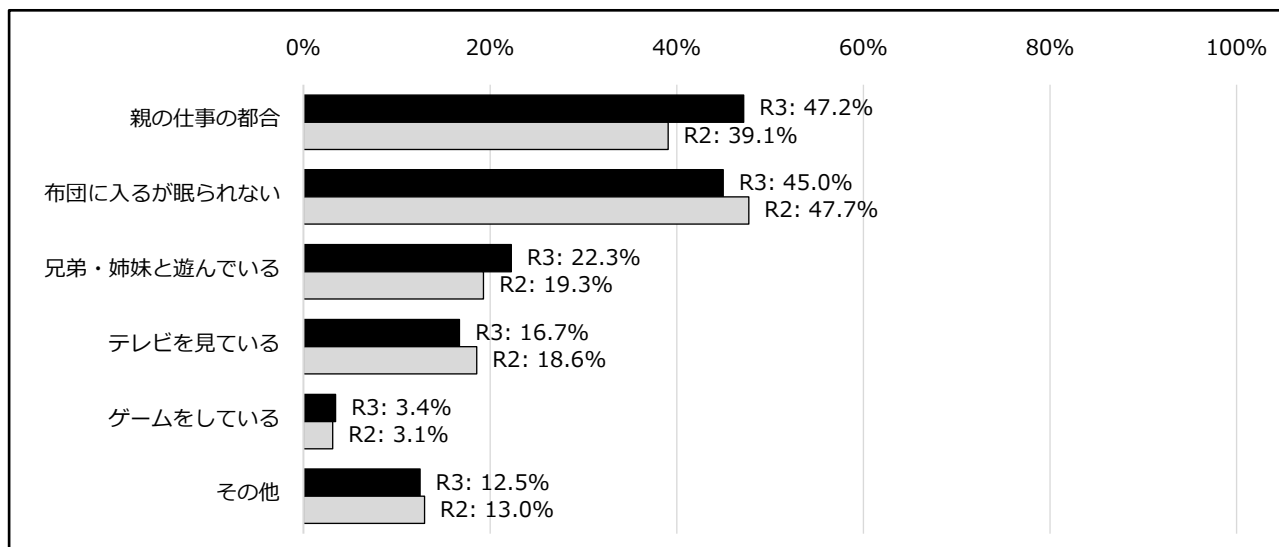
(年齢別内訳)



【概要・考察等】

- 県で推奨している「子供が『午後9時頃まで』に就寝する」と回答した割合は、昨年度より3.6ポイント減少した。昨年度までは改善傾向が見られたことから、更なる啓発が必要である。
- 「子供が『午後11時以降』に就寝する」と回答した割合は、0.7%だった。睡眠は子供の健やかな発育・発達に大切であるということについて、引き続き啓発していく必要がある。

2-1-2 「2-1-1」で「午後9時から10時頃まで」, 「午後10時から11時頃まで」又は「午後11時以降」を選択した方は, お子さんが午後9時以降に寝る理由をお答えください。(該当するもの全て選択)



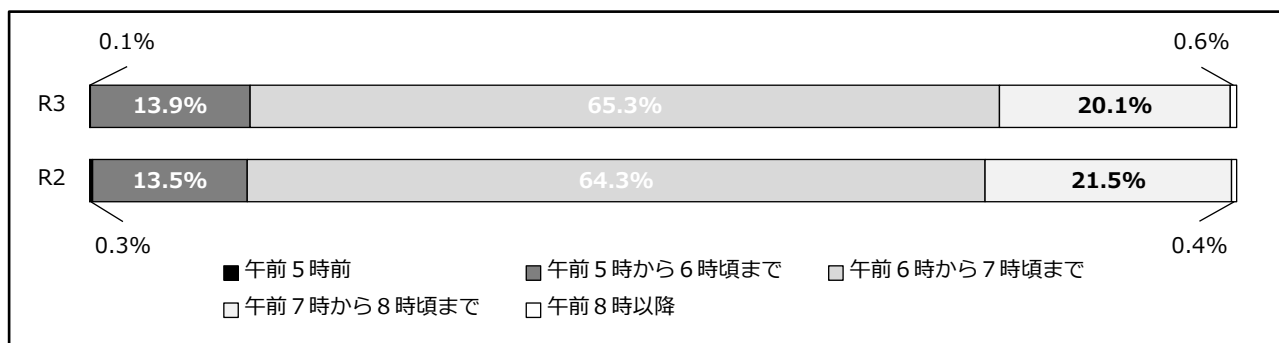
【その他の主な内容】

昼寝の時間が長かった, 夕寝をした, 父親の帰りを待っていた, 習い事(兄弟・姉妹)があった

【概要・考察等】

- 「親の仕事の都合」を理由として回答した割合が最も高く, 昨年度より8.1ポイント増加した。家庭生活と親の仕事の調和について, 社会全体で考え, 取り組む必要がある。

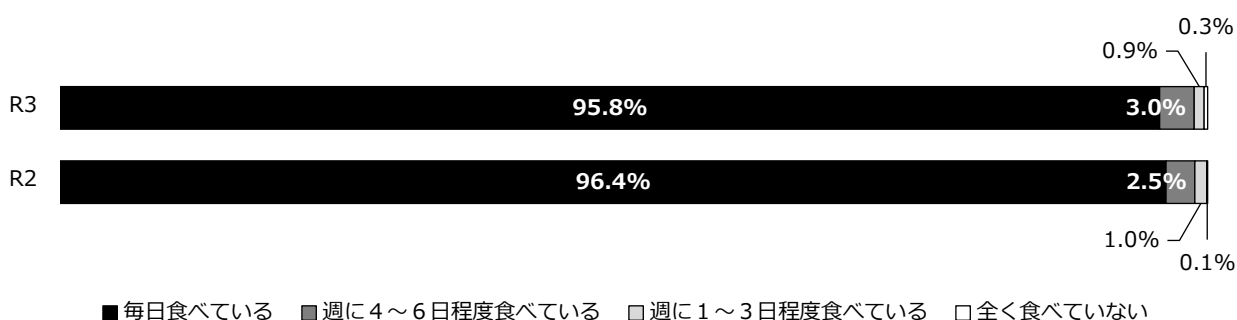
2-2 お子さんはいつも何時頃に起きますか。



【概要・考察等】

- 「子供が『午前7時頃まで』に起床する」と回答した割合は, 1.2ポイント増加した。

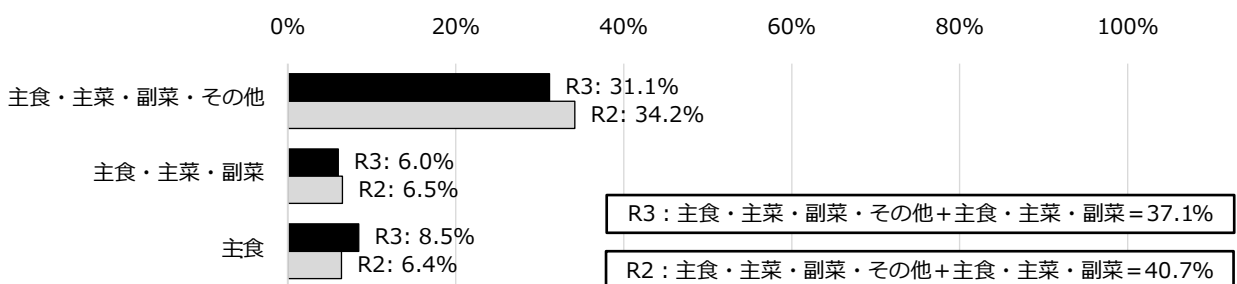
2-3-1 お子さんは毎日、朝ごはんを食べていますか。



【概要・考察等】

○ 朝食を「毎日食べている」「週に4～6日程度食べている」と回答した割合は、98.8%であり、昨年度と同様、高い割合を示していることから、朝食の必要性についての理解が浸透し実践されていることがうかがえる。

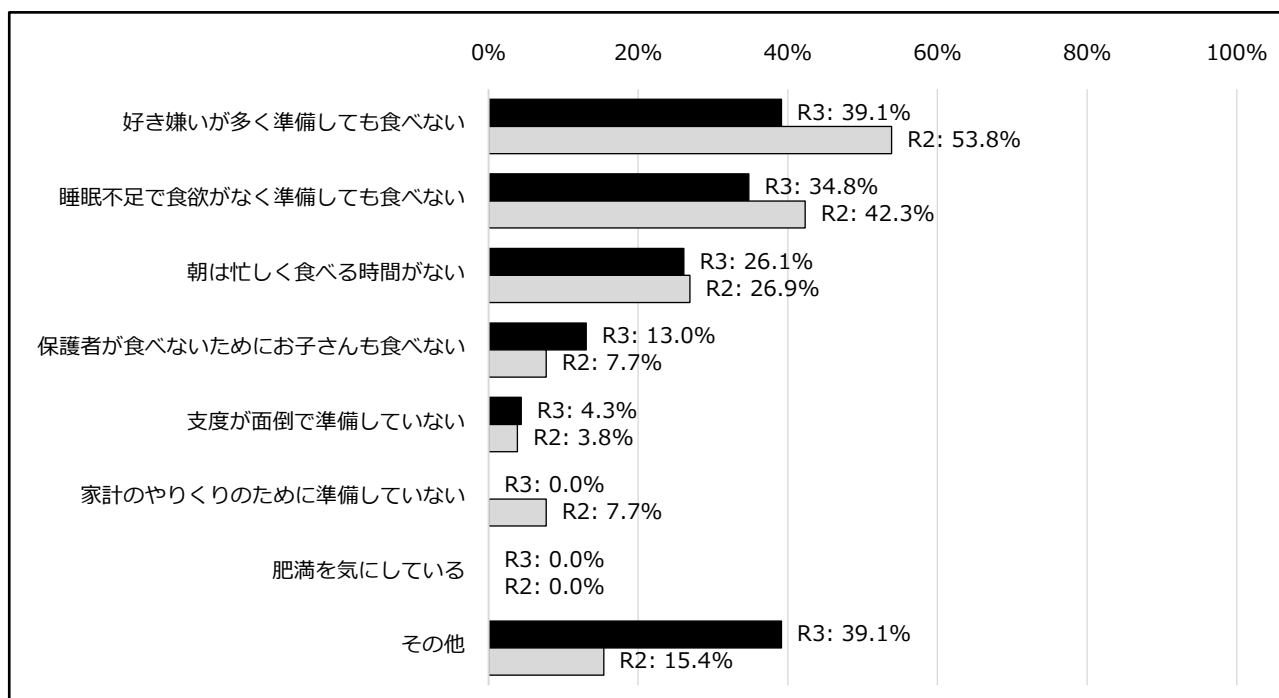
2-3-2 「2-3-1」で「毎日食べている」又は「週に4～6日程度食べている」を選択した方は、お子さんが普段朝ごはんに食べているものを全てお答えください。（該当するもの全て選択）



【概要・考察等】

- 朝食に「主食・主菜・副菜・その他」「主食・主菜・副菜」を食べていると回答した割合は、昨年度より3.6ポイント減少した。
- 「主食」のみと回答した割合が、昨年度より2.1ポイント増加したことから、朝食の必要性とともに、栄養バランスのよい朝食を摂ることの重要性を合わせて啓発する必要がある。

2-3-3 「2-3-1」で「週に1~3日程度食べている」又は「全く食べていない」を選択した方は、お子さんが朝ごはんを食べない理由をお答えください。（該当するもの全て選択）



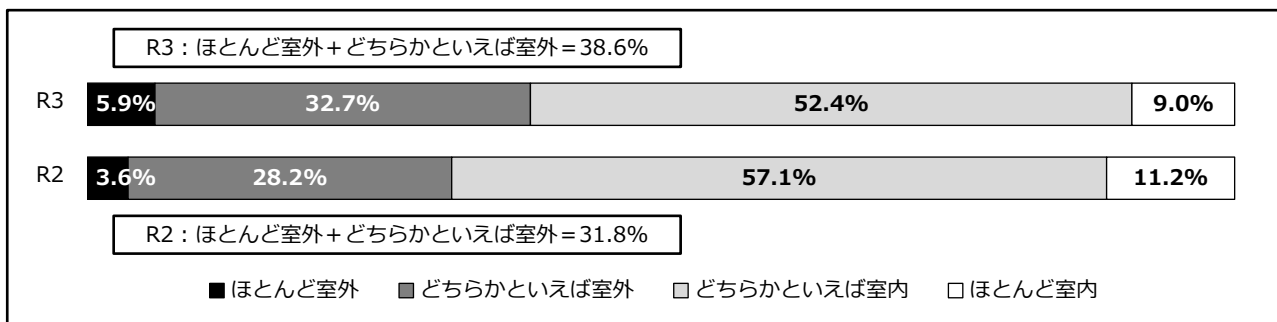
【その他の主な内容】

離乳食（昼夜）のため、夕食をたくさん食べて食欲がないため

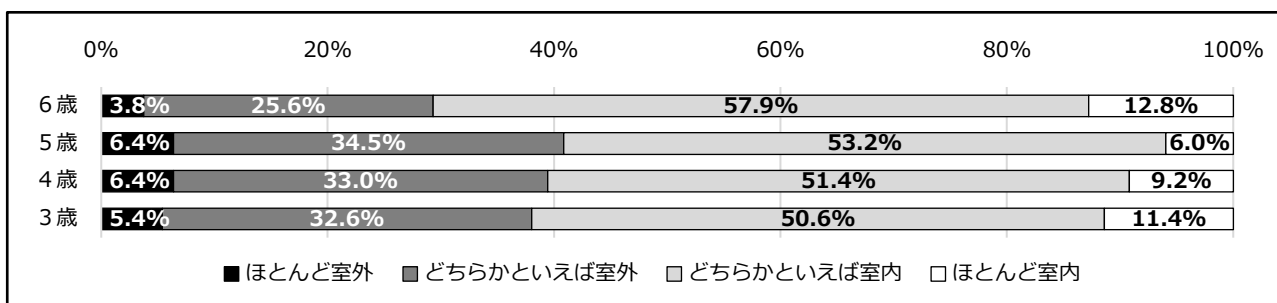
【概要・考察等】

- 「好き嫌が多く準備しても食べない」を理由として回答した割合が最も高かったが、昨年度より14.7ポイント減少した。
- 「睡眠不足で食欲がなく準備しても食べない」「朝は忙しく食べる時間がない」という理由に対しては、就寝時刻の見直しなどにより改善されることが期待される。

2-4 お子さんは平日や休日に家庭で遊ぶとき、室内、室外のどちらが多いですか。
※ お子さんが3歳児以上の方のみ回答



(年齢別内訳)



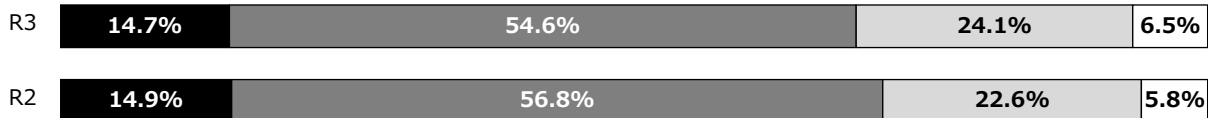
【概要・考察等】

○ 家庭で遊ぶとき「ほとんど室外」「どちらかといえば室外」と回答した割合は、昨年度より6.8ポイント増加した。外遊びを大切に考える保護者が増加したことがうかがえる。

2-5-1 お子さんの基本的な生活習慣の確立にもつなげる「家庭生活と仕事の調和」はとれていると感じますか。

※ 現在、就業している方のみ回答

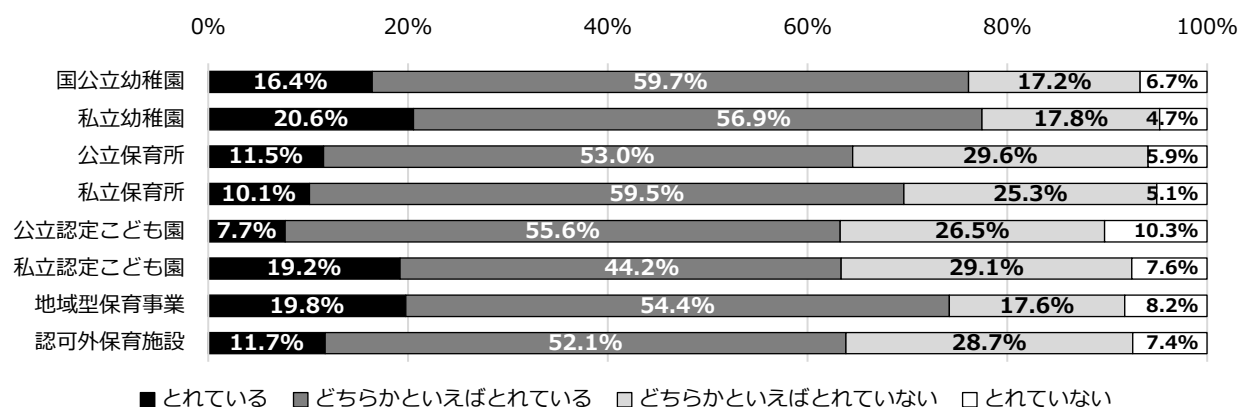
R3 : とれている + どちらかといえばとれている = 69.3%



R2 : とれている + どちらかといえばとれている = 71.7%

■ とれている ■ どちらかといえばとれている □ どちらかといえばとれていない □ とれていない

(施設類型別内訳)



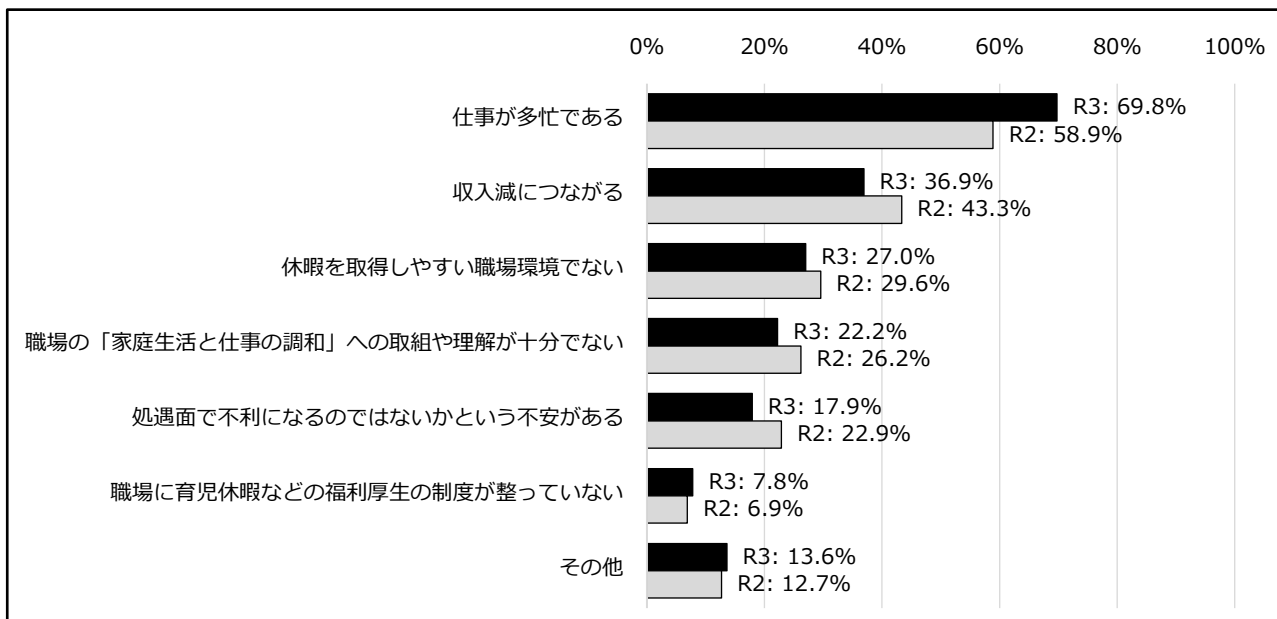
■ とれている ■ どちらかといえばとれている □ どちらかといえばとれていない □ とれていない

【概要・考察等】

- 家庭生活と仕事の調和が「とれている」「どちらかといえばとれている」と回答した割合は、昨年度より2.4ポイント減少した。
- 家庭生活と仕事の調和は、「親子のかかわり」や「子供の基本的な生活習慣づくり」にも影響することから、企業における一層の「働き方改革」の推進や「学ぶ土台づくり」に関連する施策についての啓発を図る必要がある。

2-5-2 「2-5-1」で「どちらかといえばとれていない」又は「とれていない」を選択した方は、その理由をお答えください。（該当するもの全て選択）

※ 現在、就業している方のみ回答



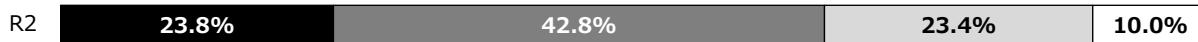
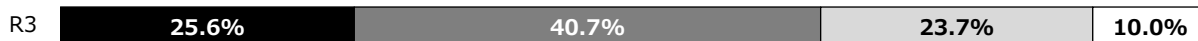
【その他の主な内容】

時短勤務が気軽にできないため、勤務場所が遠方のため、勤務時間が不規則なため

【概要・考察等】

- 「仕事が多忙である」を理由として回答した割合が最も高く、昨年度より10.9ポイント増加した。
- 「収入減につながる」「休暇を取得しやすい環境でない」「職場の『家庭生活と仕事の調和』への取組や理解が十分でない」を理由として回答した割合は、いずれも20%以上と高く、職場や企業の理解を得られるよう引き続き啓発していく必要がある。

2-6 子供の基本的生活習慣の確立に向けた「ルルブル」の取組に関して、家庭における取組状況についてお答えください。



- 「ルルブル」を実践（意識）している
- 「ルルブル」は知らないが、その内容は実践（意識）している
- 「ルルブル」は知っているが、実践（意識）していない
- 「ルルブル」を知らないし、実践（意識）していない

【概要・考察等】

- 「ルルブル」の取組を「実践（意識）している」「知らないが、その内容は実践（意識）している」と回答した割合は、昨年度より0.3ポイント減少した。
- 引き続き「ルルブル」の取組の普及啓発を図り、基本的生活習慣の確立の重要性について理解を促進していくとともに、実践につなげる取組を行っていく必要がある。

2-7 幼児教育の充実に向けた「学ぶ土台づくり」の取組に関して、家庭における取組状況についてお答えください。



- 「学ぶ土台づくり」を実践（意識）している
- 「学ぶ土台づくり」は知らないが、その内容は実践（意識）している
- 「学ぶ土台づくり」は知っているが、実践（意識）していない
- 「学ぶ土台づくり」を知らないし、実践（意識）していない

【概要・考察等】

- 「学ぶ土台づくり」の取組を「実践（意識）している」「知らないが、その内容は実践（意識）している」と回答した割合は、昨年度より7.5ポイント増加した。
- これまでの「学ぶ土台づくり」の取組の普及啓発の効果が現れていることがうかがえるため、引き続き普及啓発を図っていく。

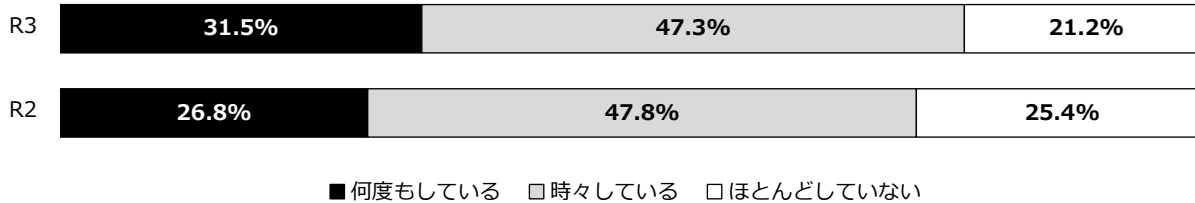
（今年度の教員・保育士と保護者の実践（意識）の比較）

種 別	ルルブル		学ぶ土台づくり	
	教員・保育士	保 護 者	教員・保育士	保 護 者
実践（意識）している	53.8%	25.6%	59.9%	21.7%
知らないが その内容は実践（意識）している	15.9%	40.7%	15.9%	49.5%
実践（意識）している割合	69.7%	66.3%	75.8%	71.2%
知っているが 実践（意識）していない	26.4%	23.7%	18.4%	12.6%
知らないし 実践（意識）していない	3.8%	10.0%	5.8%	16.2%

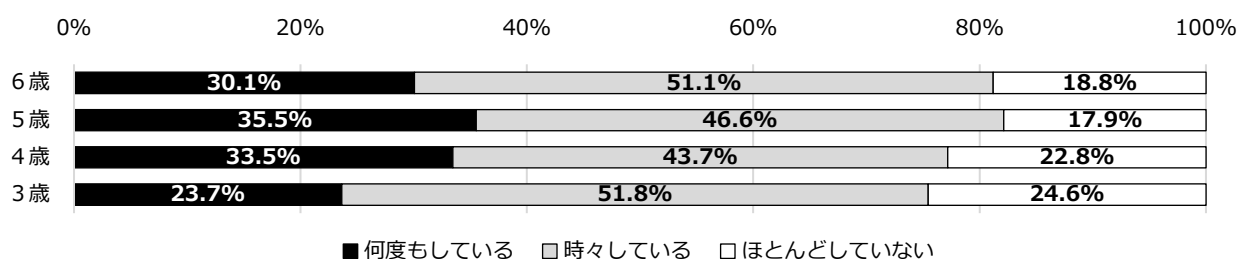
3 お子さんの体験活動について

3-1-1 お子さんは自然体験活動（水遊び、虫捕り、キャンプ、ハイキングなど）をどの位していますか。

※ お子さんが3歳児以上の方のみ回答



(年齢別内訳)



【概要・考察等】

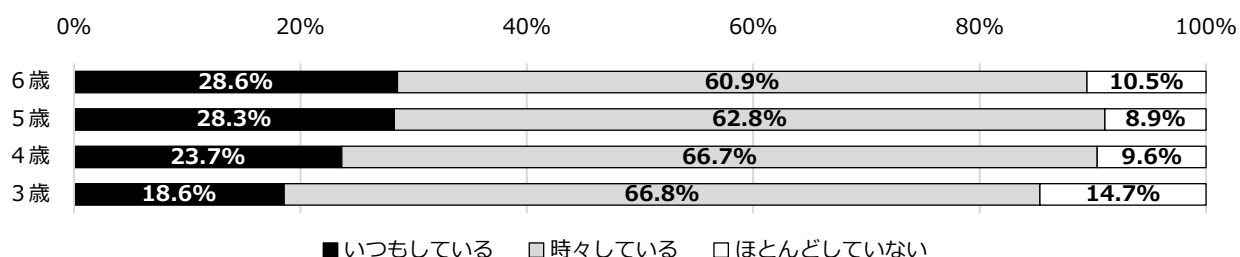
- 自然体験活動を「何度もしている」と回答した割合は、年々増加傾向にあり、昨年度より4.7ポイント増加した。
- 年齢別では、年齢が上がるにつれて、「何度もしている」「時々している」と回答する割合が高くなる傾向が見られる。

3-1-2 お子さんは家事・手伝い（食事の配膳・片付けや掃除，洗濯物をたたむなど）をどの位していますか。

※ お子さんが3歳児以上の方のみ回答



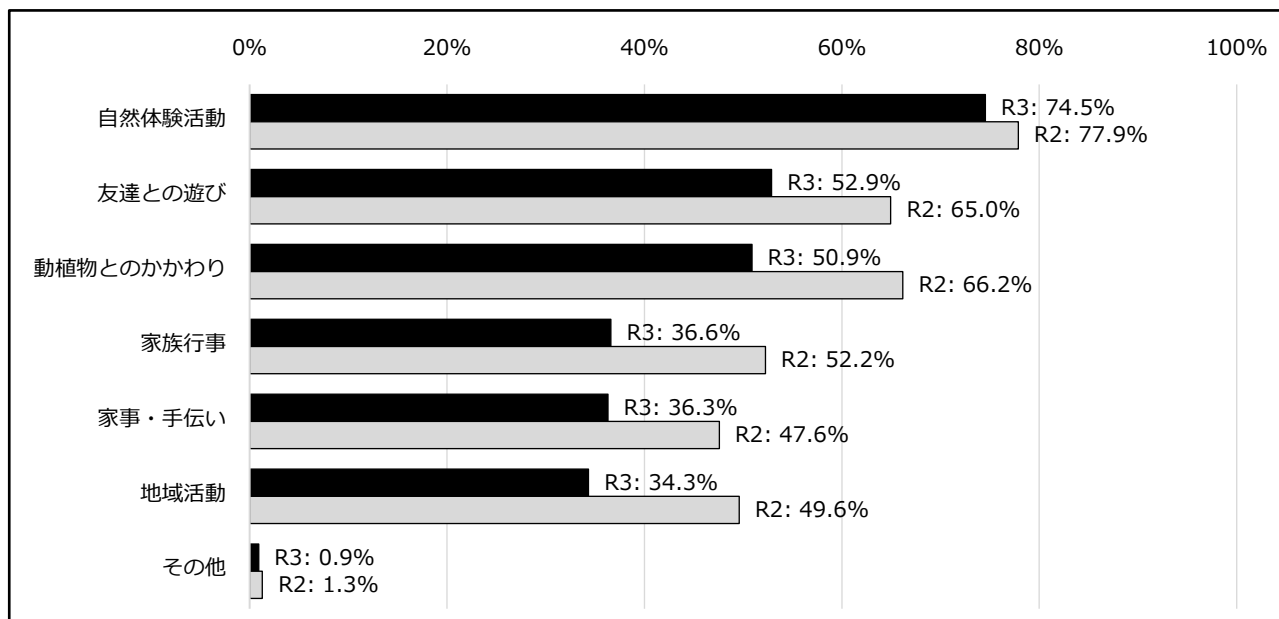
(年齢別内訳)



【概要・考察等】

- 家事・手伝いを「いつもしている」と回答した割合は，昨年度より0.5ポイント減少した。
- 年齢別では，年齢が上がるにつれて，「いつもしている」と回答する割合が高くなる傾向が見られる。年齢が上がるにつれてできることも増え，子供が家族の一員としての存在であることを認識し，家庭での役割を積極的に果たすことができるようになってきていることがうかがえる。

3-2-1 家庭や地域でお子さんに体験させたい活動をお答えください。（該当するもの3つ選択）



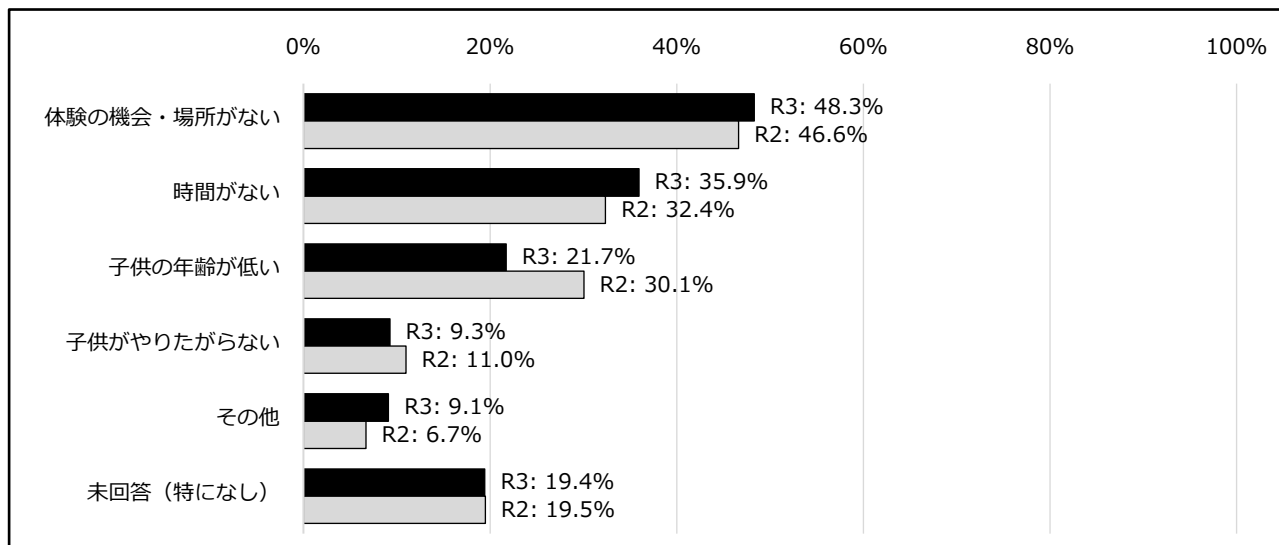
【その他の主な内容】

芸術, スポーツ, 世代間交流, 異文化交流

【概要・考察等】

- 昨年度と同様、「自然体験活動」と回答した割合が最も高かった。
- 「地域活動」と回答した割合が最も低く、昨年度より15.3ポイント減少した。
- 全ての体験活動の数値が減少したことは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響も考えられる。

3-2-2 「3-2-1」の「お子さんに体験させたい活動」について、お子さんに体験させることが難しいと感じることがありましたら、その理由をお答えください。（該当するもの全て選択）



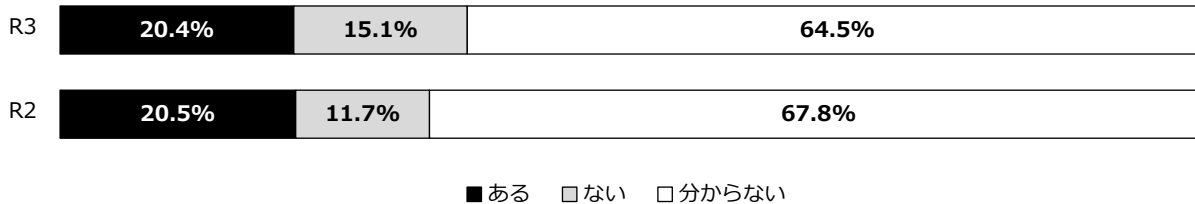
【その他の主な内容】

- 新型コロナウイルス感染症拡大が不安なため
- 下の子が小さいため
- 金銭面での不安があるため
- 保護者自身に体験活動の経験がないため

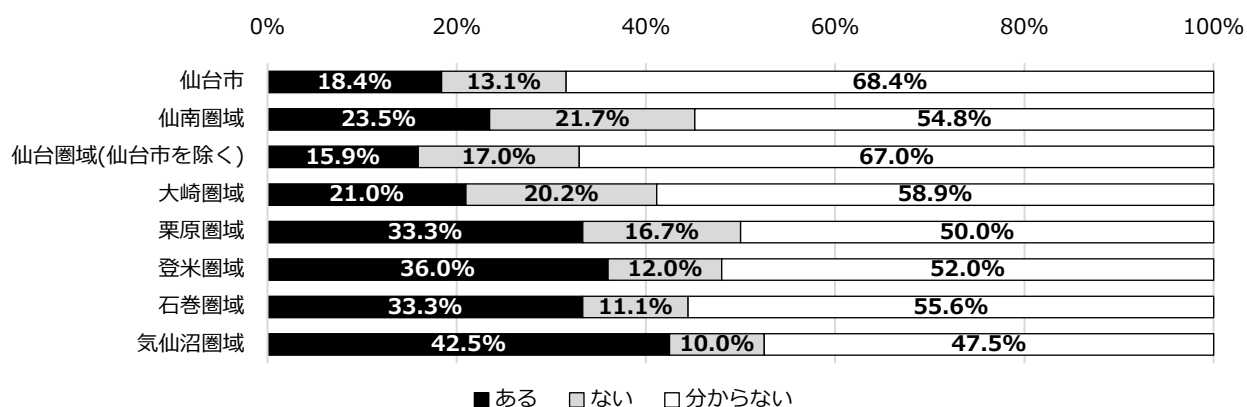
【概要・考察等】

- 昨年度と同様、「体験の機会・場所がない」と回答した割合が最も高かった。地域の公園・児童館等の公共施設や地域コミュニティ等にも目を向け、できる範囲で戸外にでかけることも大切な体験活動であることについての理解を促進していく必要がある。

3-3 あなたがお住まいの地域では、自然体験活動などについて参加できるイベントや催しなどがありますか。



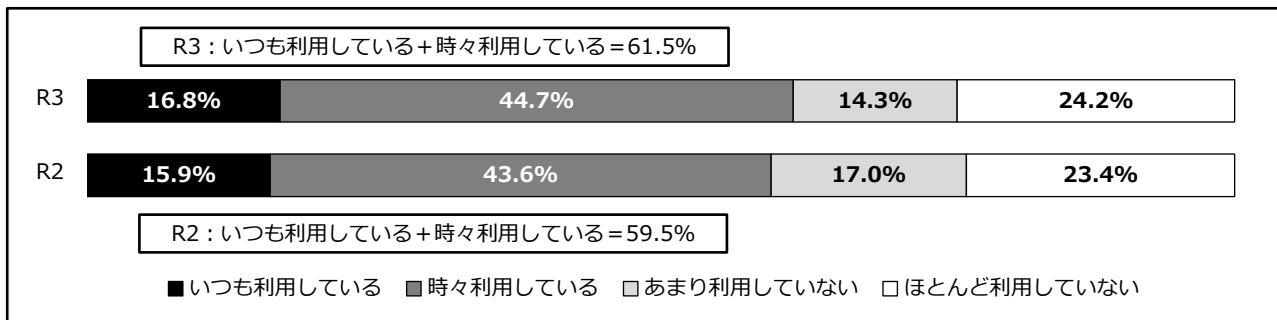
(圏域別内訳)



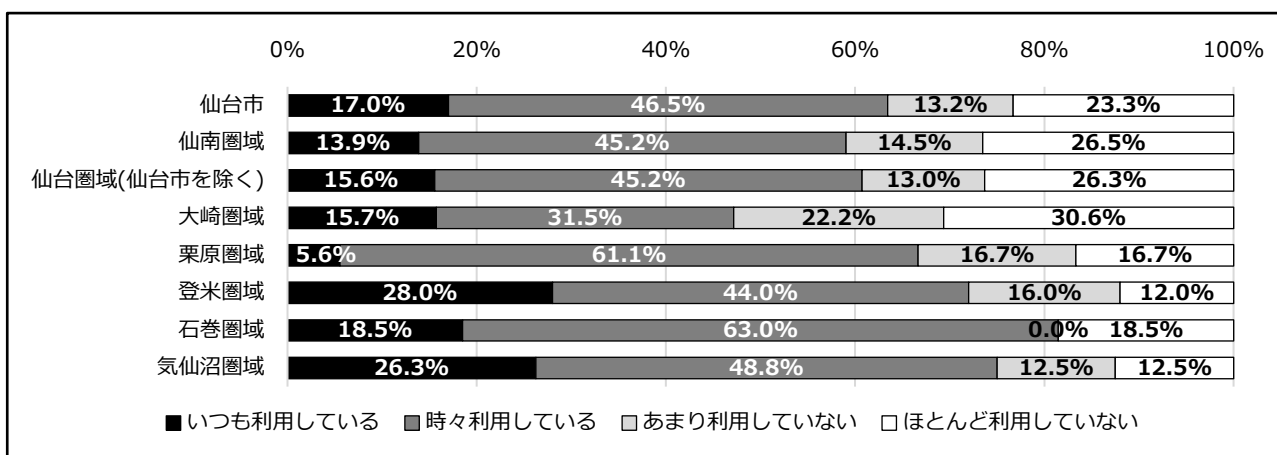
【概要・考察等】

- 居住する地域において、参加できるイベントや催しが「ある」と回答した割合は、昨年度より0.1ポイント減少した。
- 圏域別では、気仙沼圏域で「ある」と回答した割合が最も高かった。
- 県内全域で「分からない」と回答した割合が高かったことから、イベントや催しの周知方法に工夫が必要である。

3-4 遊び場として、公園や公民館、児童館などのコミュニティ施設を利用していますか。



(圏域別内訳)

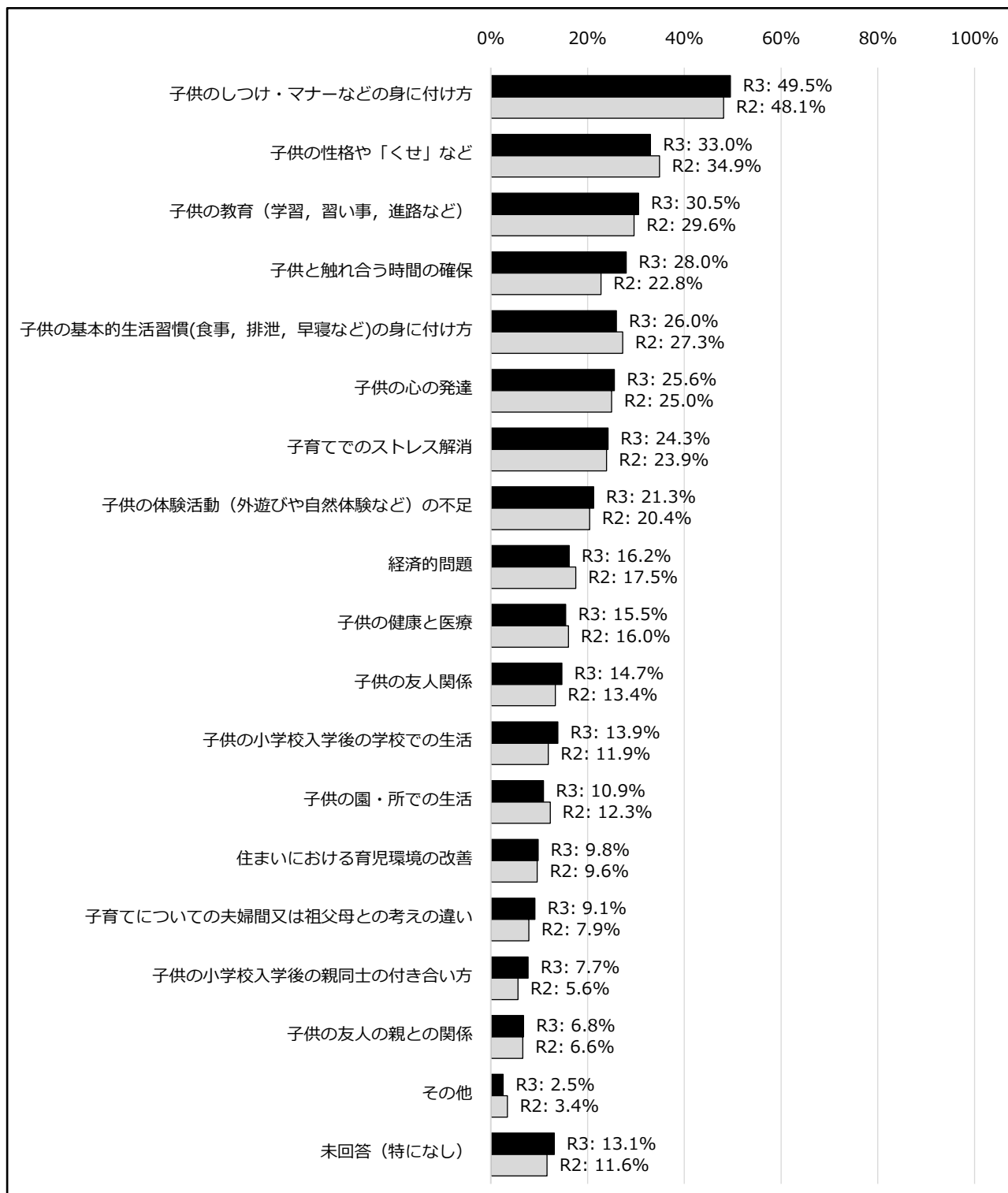


【概要・考察等】

- 遊び場としてコミュニティ施設を「いつも利用している」「時々利用している」と回答した割合は、昨年度より2.0ポイント増加した。
- 圏域別では、石巻圏域・気仙沼圏域で「いつも利用している」「時々利用している」と回答した割合が高かった。
- 遊び場としてコミュニティ施設を活用する方法について情報提供していくなど、活用をより一層促進していく必要がある。

4 幼児教育の環境について

4-1 子育てで悩んでいることがありましたら、その内容をお答えください。(該当するもの全て選択)



【その他の主な内容】

子供の遊び場の減少, 兄弟・姉妹の関係性, 父親・母親の子育てへのかかわり方

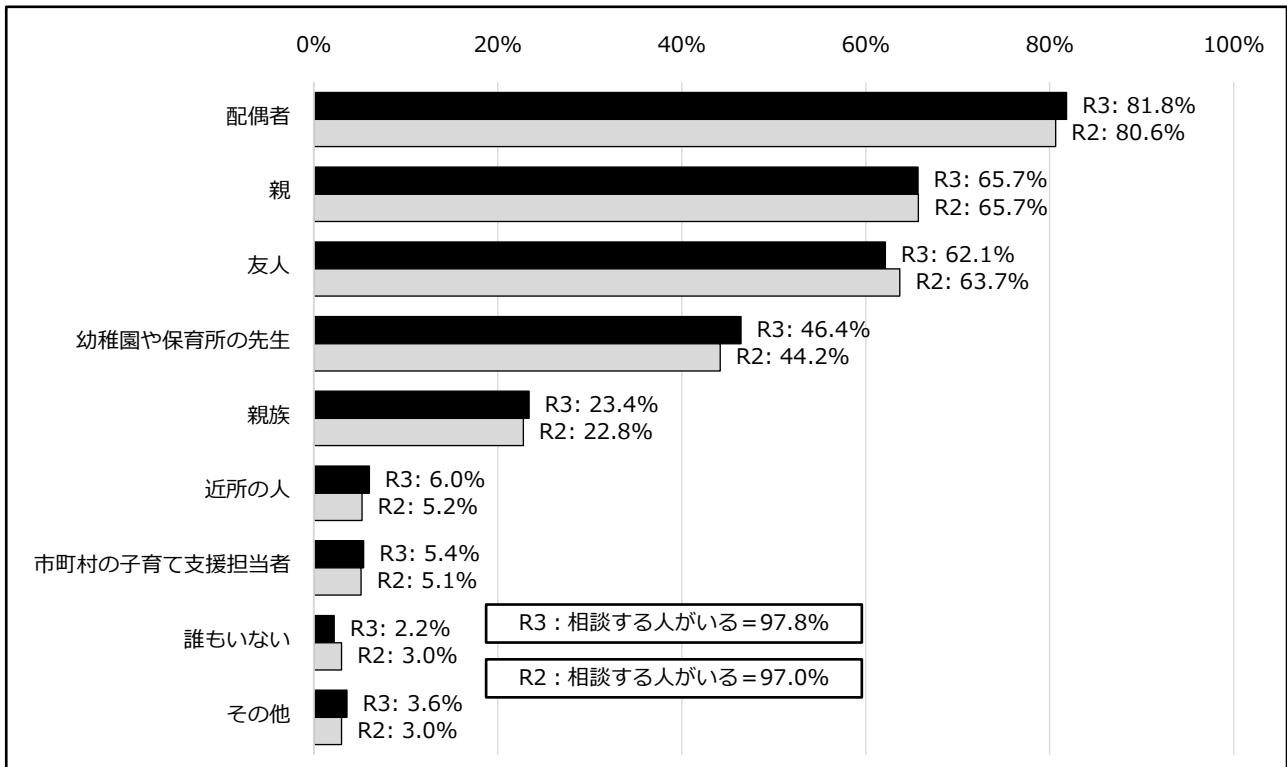
(今年度の年齢別上位項目)

順位 \ 年齢	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳
1 位	しつけ・マナー 教育	しつけ・マナー	しつけ・マナー	しつけ・マナー	しつけ・マナー	しつけ・マナー	しつけ・マナー
2 位		触れ合う時間	基本的な生活習慣	性格・くせ	性格・くせ	性格・くせ	性格・くせ
3 位	心の発達 健康・医療 触れ合う時間	基本的な生活習慣	触れ合う時間	基本的な生活習慣	教育	教育	教育
4 位		性格・くせ	教育	教育	触れ合う時間	小学校生活	触れ合う時間
5 位		心の発達	ストレス解消	心の発達	心の発達	心の発達	心の発達 体験活動不足

【概要・考察等】

- 昨年度と同様、「子供のしつけ・マナーなどの身に付け方」「子供の性格や『くせ』など」と回答した割合が高かった。
- 「子供と触れ合う時間の確保」と回答した割合は、昨年度より5.2ポイント増加した。
- 年齢別では、年齢が上がるにつれて、「子供の性格や『くせ』など」「子供の教育（学習、習い事、進路など）」と回答する割合が高くなり、「子供の基本的な生活習慣（食事、排泄、早寝など）の身に付け方」「子供と触れ合う時間の確保」と回答する割合が低くなる傾向が見られる。

4-2 子育ての悩みについて誰に相談していますか。(該当するもの全て選択)



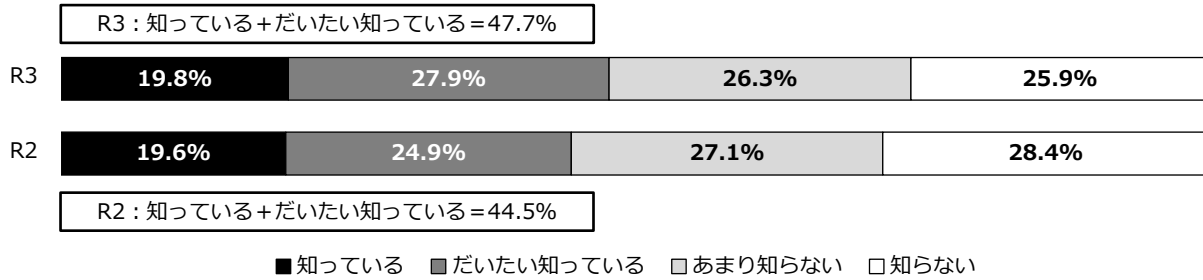
【その他の主な内容】

職場の人, SNS上の知人, 医療関係者, 園・所の保護者

【概要・考察等】

- 子育ての悩みについて相談する人がいると回答した割合は、昨年度より0.8ポイント増加した。
- 「誰もいない」と回答した割合は、2.2%であり、全1,975件の回答数のうち44件の保護者が相談する人が「誰もいない」という結果だった。
- 子育ての孤立化は、虐待などに発展する事案があることから、引き続き子育ての悩みを相談できる環境づくりを推進していく必要がある。

4-3 お子さんの行動（落ち着きがない、パニックを起こしやすいなど）が気になるときの相談先を知っていますか。



【概要・考察等】

- 子供の行動が気になるときにどこに相談すればよいか「知っている」「だいたい知っている」と回答した割合は、昨年度より3.2ポイント増加した。
- 「知っている」「だいたい知っている」と回答した割合は、年々増加傾向にあるが、50%以下であるため、保護者の目線に立った相談窓口や情報提供の在り方を整理していく必要がある。

4-4 発達障害（ADHD、LD、自閉症など）の特性や発達障害がある方への接し方などについて知っていますか。



【概要・考察等】

- 発達障害の特性や発達障害がある方への接し方などを「知っている」「だいたい知っている」と回答した割合は、昨年度より0.3ポイント増加した。
- 発達障害への適切な理解を促進していくため、引き続き発達障害に関する情報や学ぶ機会を提供していく必要がある。